簡便エミュレーションによる 実験計画の高速化

樋口知之

情報・システム研究機構 統計数理研究所

1/42 **太明** 大学科月间周期总人 银帆 -2-2-5-4 **大明 統計数理研究所**

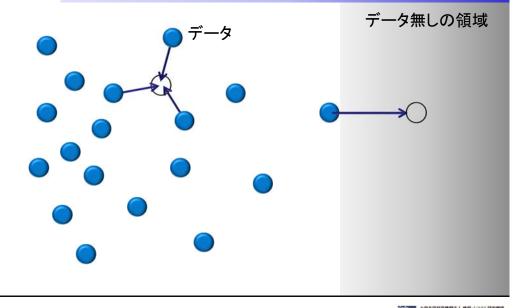
1.a 基本概念と目的

アウトライン

- 1. データ同化
 - a. 基本概念と目的
 - b. アルゴリズムの基本
 - c. 設計技術の革新
 - d. DAセンターによる応用事例
- 2. 簡便エミュレータ
 - a. 必要な理由と動向
 - b. 構成法
- 3. スパース回帰: LASSO, CS, NMF
- 4. GPR: Gaussian Process Regression

統計数理研究所

内挿と外挿問題

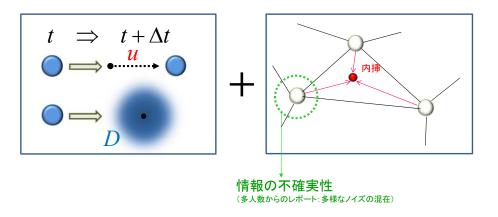


 $3/_{42}$

いろいろなビジネス展開が可能

移流と拡散 + クラウドソーシング = 予測能力

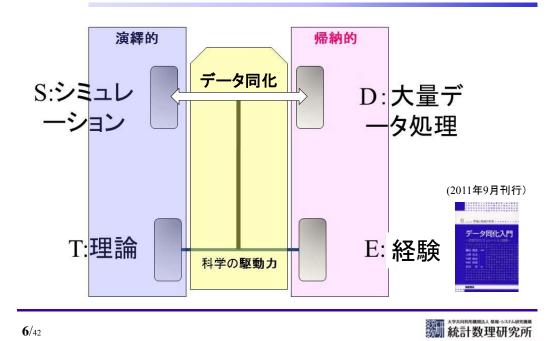
現況を捉える認識力 スマホ(とGPS) フォワード計算モデル



統計数理研究所

1.b アルゴリズムの基本

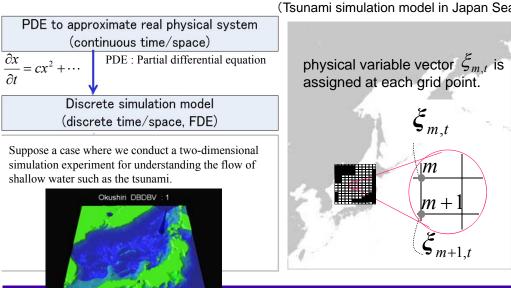
つなぐ:データ同化



シミュレーションモデルの構成 (1)

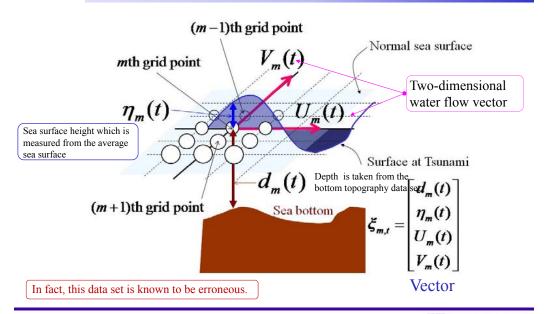
(Tsunami simulation model in Japan Sea)

新 統計数理研究所



統計数理研究所

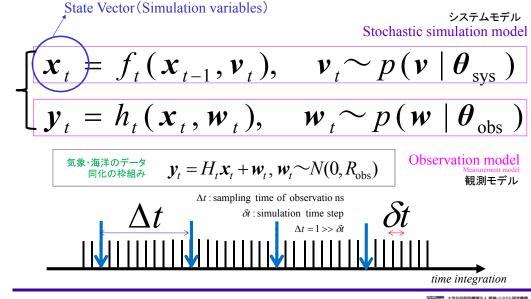
シミュレーションモデルの構成(2)



9/42

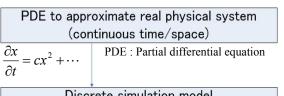
統計数理研究所

データ同化と一般状態空間モデル



システムモデルとしてのシミュレーションモデル

(simplified meteorological model around Japan)



Discrete simulation model (discrete time/space, FDE)

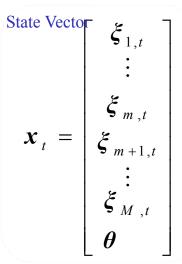
 $\mathbf{x}_{t} = f_{t}(\mathbf{x}_{t-1})$ 代入計算

(time varying)

Boundary conditions \mathbf{V}_t

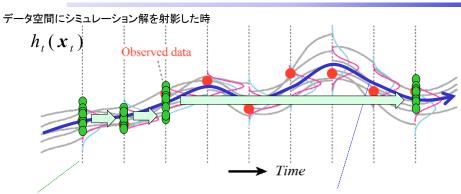
Nonlinear state space model (discrete time/space, stochastic(SDE))

$$\boldsymbol{x}_t = f_t(\boldsymbol{x}_{t-1}, \boldsymbol{v}_t)$$



10/42

逐次(アンサンブル)vs. 非逐次(最適パス)



逐次(オンライン)型: 集団の時間 発展を追う。 つまり、Swarm Filter

代表例: EnKF (Ensemble Kalman Filter)

非逐次(オフライン)型:ベスト初期値をもつパス を求める

代表例: 4次元変分法(Adjoint法)



13/42

15/42

マルチエージェントシミュレーションへの応用

Cyber-physical systems (CPS) are engineered systems that are built from and depend upon the synergy of computational and physical components.

The term "cyber-physical systems" refers to the tight conjoining of and coordination between computational and physical resources.

An embedding of the multi-agent based mode, that is a person-based model to describe each behavior, can be easily achieved by replacing a grid with a person in the definition of the state vector. $oldsymbol{\xi}_{1,t}$

Human Modeling

$$\xi_{m,t}$$
 = (variables to specify a behavior of the *m*-th agent) $x =$

$$p(\boldsymbol{x}_t \mid \boldsymbol{x}_{t-1})$$
 MAS: Multi-Agent based Simulation

 $\Leftarrow f_t$ $\boldsymbol{\xi}_{M,t-1}$ $\xi_{M,t}$

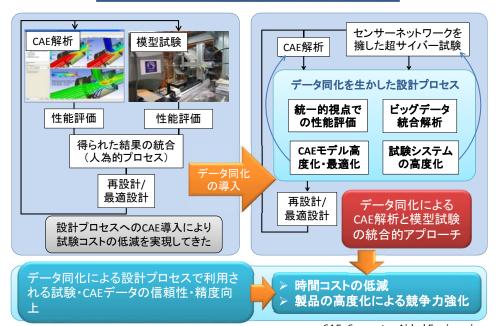
統計数理研究所

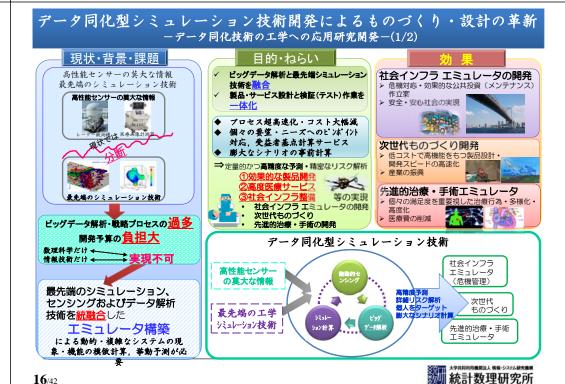
14/₄₂

1.c 設計技術の革新

統計数理研究所

データ同化による設計技術の革新





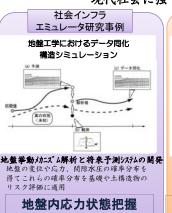
CAE: Computer-Aided Engineering

データ同化型シミュレーション技術開発によるものづくり・設計の革新 -データ同化技術の工学への応用研究開発-(2/2)

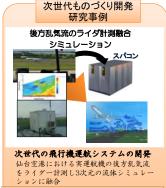
COCN より抜粋・要約

(ア)自然現象を数学モデルに近似するモデルによる誤差 (イ)材料データなど入力データを持つばらつき(構成式, 減衰率。熱伝達率など) HPC応用研究会提言に対応するシーズ技術としては、DA(データ同化を提言したい) DAは複雑な現象を科学的に理解し、精度よく予測したいという要求にこたえる技術でき 産業競争力制設会 り、モデルから複雑現象を再現する演繹アプローチと複雑現象の観測結果からモデルを推測する帰納アプローチが融合した次世代のシミュレーション こ対応するシーズ技術としては,<mark>DA(データ同化)を提言したい</mark>。DAは複雑な現象を科学的に理解し,精度よく予測したいという要求にこたえる技術であ 技術である。これまで主に**地球科学の分野**において数値モデルの再現性を高めるためにモデルに観測データを埋め込み、馴染ませることを意図して研究さ

一現代社会に強く求められるデータ同化技術の研究開発ー



精度検証の実現





離発着間隔の制限解除 安全時短省エネ運航の実現

統計数理研究所 **17**/42

1.d DAセンターによる応用事例 (ちょっと脇道)

統計数理研究所

Application studies carried out by our group for model improvements

Research Projects:



Typhoon trajectory



Tsunami, Ocean tide Auroral phenomena



3D structure of ring current



Acoustic waves



Intercellular fluid dynamics



Genome informatics



Drug response prediction



Neuronal circuits of whole nerve cells



Influenza Pandemic (Multi agent simulation)



Watch You Tibe "Data Assimilation

R&D Center at ISM"

簡便エミュレータ 2.a 必要な理由と動向

通常のエミュレータの概念

エミュレータ(Emulator)とは、コンピュータや機械の模倣装置あるい は模倣ソフトウェアのことである。

概要

コンピュータ分野で使われることが多い用語だが、もともとは機械装置全般に使う 言葉である。判りやすく言えば、機械を真似る機械である。

語源

21/42

エミュレーションやエミュレータは、模倣対象のシステムにおいて、予測できる現象 より予測できない現象が支配的である場合に使われる。また、非常に高い安全性 が要求される場合にも良く使われる。予測できる現象が支配的な場合や、完全に 模倣することが難しい場合はシミュレーション技術を使う。

(Wikipediaより)

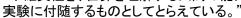
統計数理研究所

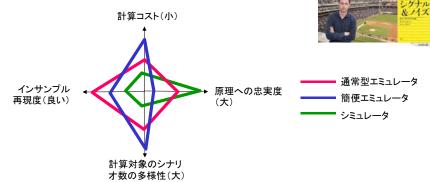
統計数理研究所

計算コストと予測精度

- 高い計算コスト(オンライン計算が難しい)
- 不確実性の取り扱い方

"不確実性を、世界を理解する人間の能力に付随するものではなく、



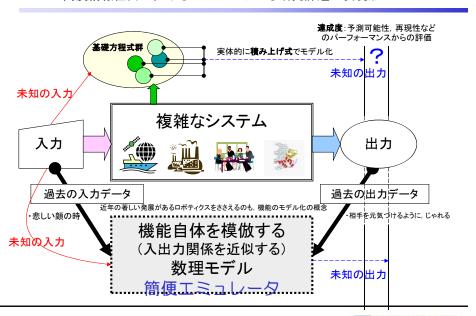


22/42

統計数理研究所

機能のモデル化:簡便エミュレータ

高度情報社会におけるユニバーサルな研究課題の表現形



予測と発見



グレイボックスモデル (元トヨタ 大畠氏)

統計数理(2006) 第 54 巻 第 2 号 209-210

2006年

特集「予測と発見」

「特集 予測と発見」について

統計数理研究所

UQ: Uncertainty Quantification

- 欧米では、計算機シミュレーション結果の信頼性を具体的に確立するための方法論の研究が急速に熱を帯びてきており、ASME(The American Society of Mechanical Engineers)がVerification and Validation (通常V&Vと呼称)の標準化に大きな力を注いでいる。例えば、2006年には固体力学に対して、2009年には流体力学および熱解析に関する計算機シミュレーションのV&Vが公表されている。
- 欧州においては流体力学の分野で同種の研究活動が2012年から活発化しており、Uncertainty Quantification (UQ) in Industrial Analysis and Design の名のプロジェクト研究が現在進行中である。
- NASAでは、NASA UQ challenge 2014と題して、スパースな限定されたパラメータセットに関するシミュレーションの 結果データから、UQをモデル化するコンペを開始した。
- 米国統計コミュニティは、2011-12年に、NSFのサポートを受ける機関SAMSI(Statistical and Applied Mathematical Sciences Institute)にてUQを集中的に研究するプログラムを立ち上げた。
- * 米国統計学会はSIAM(Society for Industrial and Applied Mathematics)と共同でJournal on UQの刊行を2014年に 開始した。その雑誌の取り扱う主たる分野としてsensitivity analysis, model validation, model calibration, data assimilationの4つがあげられている。最新号の論文(4本掲載)は、感度解析、ガウス過程回帰、モデル較正、ギプスサンプラーの解析のテーマとなっており、ほぼ統計学の範疇である。

重要な技術:

ガウス過程回帰や、その古典版とも言えるクリギング 次元削減を目的としたスパース回帰

中野慎也、樋口知之、地球科学におけるシミュレーションとビッグデータ ーデータ同化とエミュレーションー、電子情報通信学会誌、Vol.97(10), pp.869-875, 2014

樋口知之、中村和幸、データ同化によるオンラインセンシングの高度化、 計測自動制御学会誌、Vol.51(9)、2012.

長尾大道、佐藤光三、樋口知之、マルコフ連鎖モンテカルロ法を利用したトレーサー試験からフラクチャーの物理パラメータを推定する方法、 石油技術協会誌、Vol.78(2)、pp.197-209、2013.

Iba, Y. and Akaho, S., Gaussian process regression with measurement error IEICE Trans. E93-D(10), 2010.



25/₄₂

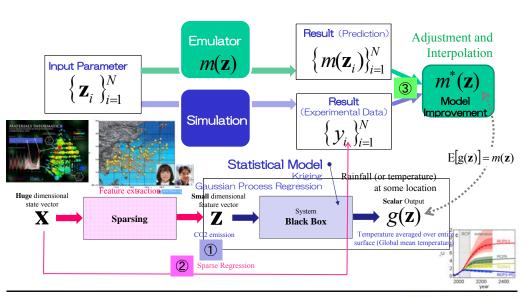
統計数理研究所

Simulation \rightarrow Data Assimilation \rightarrow Emulator:

Monte Carlo Experiments

Experimental Design, UQ

Statistical model for predicting an output given input parameters



統計数理研究所

2.b 構成法

エミュレータの設計法



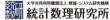
26/₄₂

1. 目的変数(スカラー値)を決める。

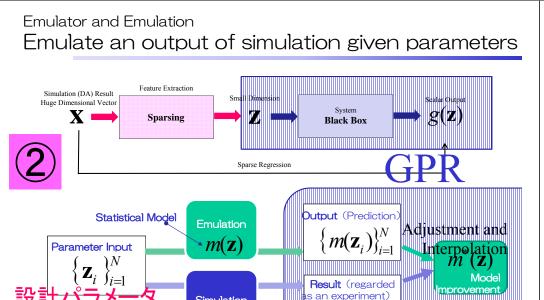


- 2. シミュレーションを複数回走らせる。
- 3. スパース回帰により、入力パラメータベクトルを同定する。
- 3

4. GPRにより、出力関数(応答局面)をもとめる。



統計数理研究所

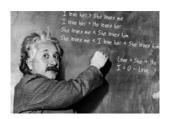


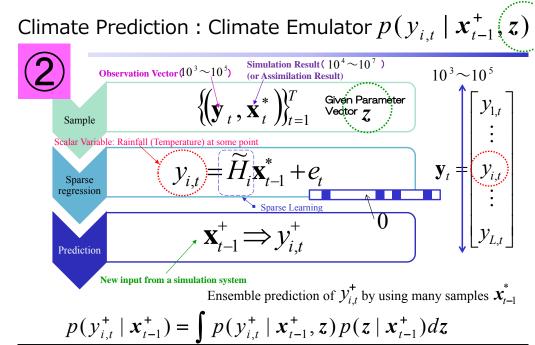
29/₄₂ 統計数理研究所

Simulation

Monte Carlo experiment Experimental Design

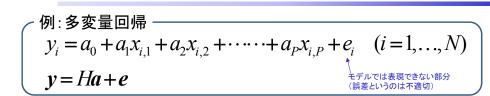
> 3. スパース回帰 LASSO, CS, NMF

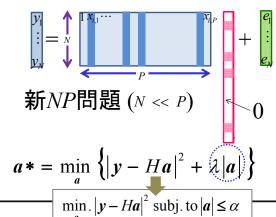




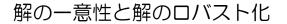
スパース(疎性を利用した)最適化

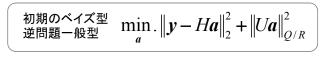
>> 統計数理研究所





統計数理研究所

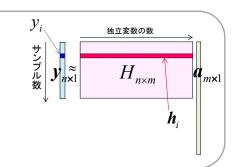




通常の線形回帰モデル
$$y_i = oldsymbol{h}_i \cdot oldsymbol{a} + w_i$$

■ n > m の場合はたいてい大丈夫

■ m > n の場合は解を一意に定められない。

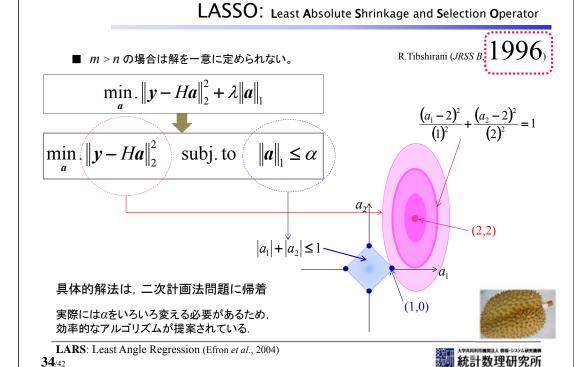


リッジ回帰
$$\min_{c} . \| \boldsymbol{y} - H\boldsymbol{a} \|_{2}^{2} + \lambda \| \boldsymbol{a} \|_{2}^{2}$$

ロバストな解を $\min_{c} . \| \boldsymbol{y} - H\boldsymbol{a} \|_{2}^{2} + \lambda \| \boldsymbol{a} \|_{1}$
 $\min_{c} . \| \boldsymbol{y} - H\boldsymbol{a} \|_{1} + \lambda \| \boldsymbol{a} \|_{1}$

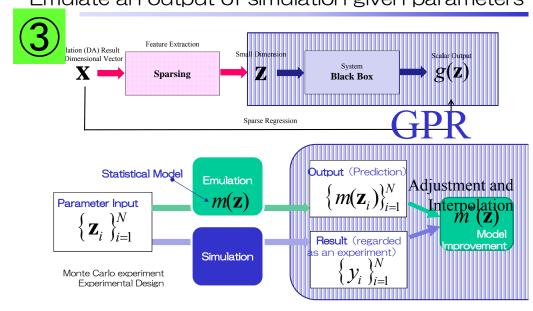
統計数理研究所

4. Gaussian Process Regression



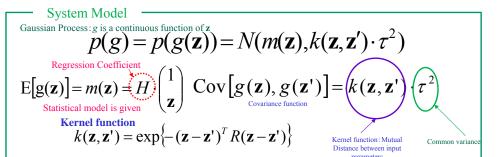
Emulator and Emulation

Emulate an output of simulation given parameters



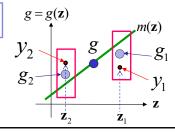
36/42

Emulator: Statistical Model (Linear Regression+GP)

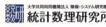


Observation Model
$$y_i = g_i + e$$
, $e \sim N(0, \sigma^2)_{(i=1,\dots,N)}$

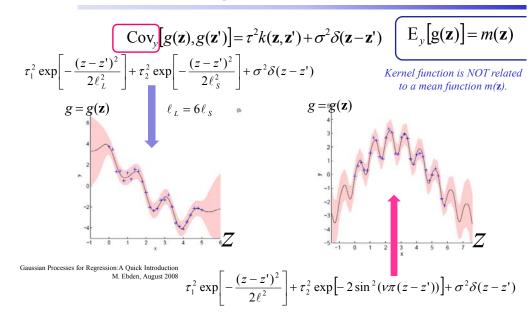
Posterior Distribution $p(g \mid Y) \propto p(Y \mid g) p(g)$ $Y^{T} = [y_{1}, \dots, y_{N}]$



37/₄₂



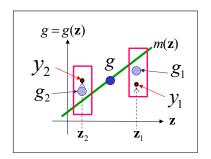
Emulator: Design of Kernel function



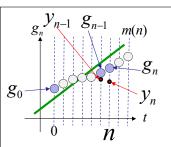
38/₄₂

大学共同科問機關法人 情報·システム研究機構 統計数理研究所

Emulator: Similar structure to SSM if discretizing

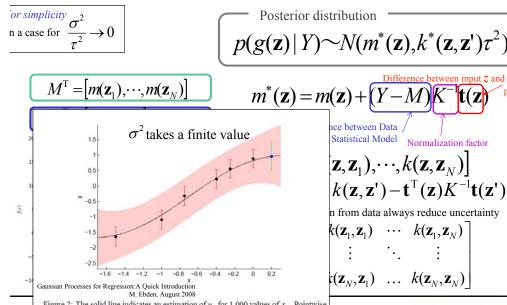






$$\begin{cases} g_n = m(n) + g_{n-1} + v_n, & v_n \sim N(0, \widetilde{\tau}^2) \\ y_n = g_n + e, & e \sim N(0, \sigma^2) \end{cases}$$
Kernel function should positive definite $k(n, n-1) = \exp\{-(1)^T R(1)\}$

大学共同相同機関法人 機関 - システム研究機構 統計数理研究所 Emulator: Online Adjustment (Calibration) and Interpolation



Emulator: Obtain a full Bayes model

 $\frac{For simplicity}{\text{In a case for }} \frac{\sigma^2}{\tau^2} \to 0$

Posterior distribution

$$p(g(\mathbf{z})|Y,\underline{\tau^2},\underline{H})\sim N(m^*(\mathbf{z}),k^*(\mathbf{z},\mathbf{z}')\tau^2)$$



$$p(g|Y) = \int p(g|Y, \tau^2, H) p(\tau^2) p(H) d\tau^2 dH$$

$$p(\tau^2) \propto \frac{1}{\tau^2}, \quad p(H) \propto 1$$
Gamma distribution Supply of complex

t distribution with a degree of freedom $N-\lambda$

Emulator

 $\lambda = \dim(\mathbf{z}) + 1$ For a part of Regression model

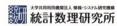
参考文献

J. Sacks *et al.*, "Design and analysis of computer experiments," *Statistical Science*, 1989.

M. C. Kennedy and A. O'hagan, "Bayesian calibration of computer models," *J. Roy. Statist. Soc. Ser. B*, 2001.
中野、樋口、"地球科学におけるシミュレーションとビッグデータ—データ同化とエミュレーション—、" 信学会会報、Vol. 97, No.10. 869-875, 2014.

Rasmussen, C. and C. Williams, Gaussian Processes for Machine Learning, MIT Press, 2006.

 $41/_{42}$



エミュレータの設計法(再掲)



1. 目的変数(スカラー値)を決める。



2. シミュレーションを複数回走らせる。

3. スパース回帰により、入力パラメータベクトルを同定する。



42/42

4. GPRにより、出力関数(応答局面)をもとめる。

統計数理研究所